

滝上町

山田 和也

1. 滝上町の概要

1.1. 地名の由来及び歴史

渚滑川上流にある滝の上部に市街地があることが由来である。

表 1 滝上町の歴史年表

1907	初めて「滝川」の地名が北海道地図に現れる
1918	渚滑村から分村「滝上村」となる
1928	滝上商工会設立
1948	滝上警察署設置される
1952	教育委員会発足
1958	町章制定される
1965	都市計画法指定及び都市計画区域が決定される
1966	学校給食センター建設され学校給食始まる
1968	地籍調査(境界測量)終了
1990	童話村をテーマとしたまちづくりがスタート
2002	住民基本台帳ネットワーク稼動
2003	紋別市を合併対象市町村とする合併協議会設置請求が提出される
2004	紋別市との合併に関する住民アンケート(合併 25.7%,自立 62.9%) 議会市町村合併問題調査特別委員会で「紋別市・滝上町合併協議会設置に関する協議」否決
2005	個人情報保護条例施行 公共施設の使用料金改定

1.2. 地理・気候

滝上町は、北海道の北東、網走管内の西部、渚滑川の上流部にあたり東はタツウシ川、オシラネツ川との分水嶺を下って、上渚滑原野 46 線をもって紋別市に隣接し、西は下川町並びに朝日町、南は上川町及び白滝村に接し、北は紋別市及び興部町、西興部村に接する。滝上町は北見山脈の中にあり三方を山に囲まれている。北東から西南に 44 キロメートル、南東から北西へ 27 キロメートルあり、総面積は 766,89 平方キロメートル、網走管内では 2 番目の広さである。河川は流路 84 キロメートル、流域面積 1240 平方キロメートルで一級河川の渚滑川があり、山岳は天塩岳(1,558 メートル)、渚滑岳(1,345 メートル)

図1 滝上町の所在地

ウエンシリ岳(1,142メートル)がある。気候はオホーツク圏の気象圏にあり、盆地特有の寒暖の著しい気象状況となることが多い。年間平均気温は5.3で、最高気温は31.2、最低気温は-29.2である。また、年間降水量は657mmであり年間平均風速は1.3m/秒である。

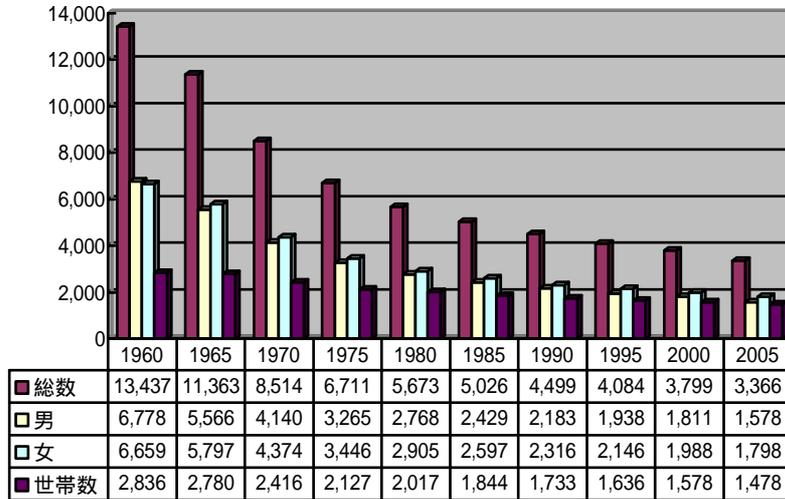


出典 網走支庁 HP

2.人口・世帯数推移

全体的に人口は減少し続けているが、1960~70にかけて、最も減少の度合いが大きい。数には偏りは見られない。人口は大きく減少しているのに対して世帯数は比較的減少が緩やかである。これは若者が都市部へ流出してしまったからであろう。

図2 人口・世帯数の推移



3.産業

3.1 農業

滝上町は上記の通り、三方を山に囲まれ、その中央を手塩岳に源を発した渚滑川がサクルー川、オシラネップ川等の各支流を集めて貫流した地勢であり、これらの流域が農耕適地となっている。地質は埴土、埴壤土の分布が多く、石れき地も多くみられる。以前は水

田が多くみられたが、現在では水田は無く、畑作や酪農が中心となっている。盆地特有の気象条件で、昼夜及び四季の寒暖の差が激しい気候であるため、農作物にとっては好条件である。家畜は多種多様で、乳牛のほか黒毛和種、外国種、輓系種、ポニー、七面鳥など特色ある家畜がみられる。また、現在では数ヘクタールしか残していないが、ハッカを生産しており、全国の生産量の95%を占めている。

全体的に農家戸数は少ないが、畑作と酪農が他と比べて圧倒的に多く、肉用牛はどれも少ないため、滝上町は畑作・酪農が中心であることがわかる。

3.2 林業

滝上町の約90パーセントを占める森林面積。自然と人との共生を求め、みどり豊かな森林づくりを進めている。また、民有林の多面的機能の維持増進にむけて人工造林、下刈、間伐への助成や林業担い手育成に向けて林業高性能機械導入や木質バイオマス資源活用に支援している。

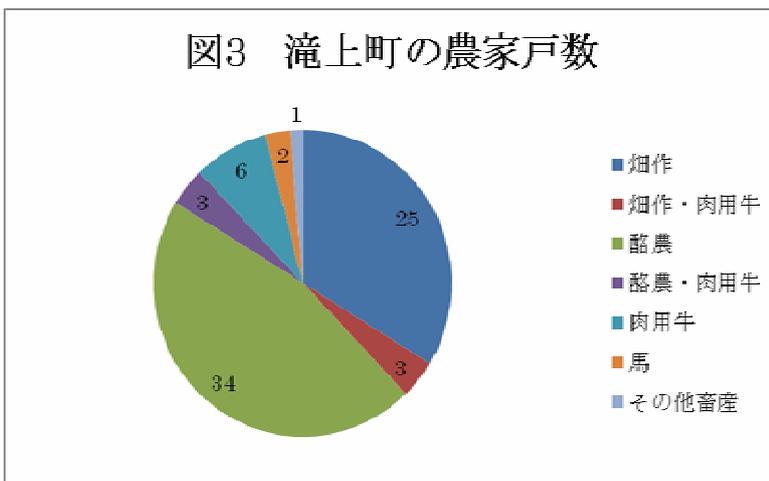


表2 滝上町の主要農産物及び家畜飼育頭数

農産物	面積 (ha)	家畜飼育頭数	当羽数
小麦	256	乳用牛	3,543
てん菜	149	黒毛和種	393
スイートコーン	141	乳雄	1,121
かぼちゃ	44	外国種	452
紫蘇	19	馬	62
じゃがいも	7	七面鳥	3,963
ハッカ	3		
アスパラ	1		
メロン	0.6		
インゲン	0.1		
牧草地	2,153		
デントコーン	308		

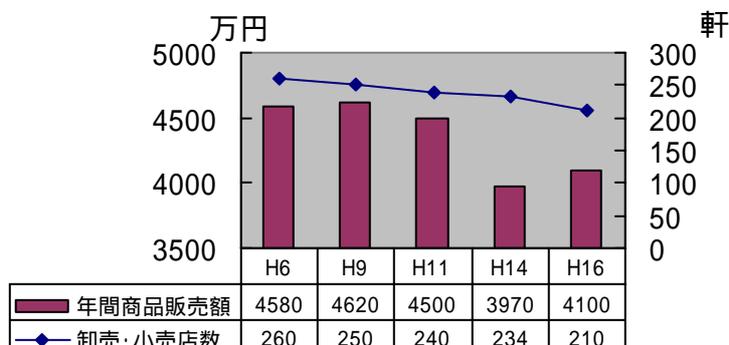
表3 滝上町の森林面積及び素材生産量

北海道林業統計 (H15)		網走支庁経済部林務課調べ (H15)	
森林面積	68503ha	素材生産量	29078 m ³
国有林	57984ha	針葉樹	20068 m ³
町有林	2660ha	広葉樹	9010 m ³
民有林	7858ha		

3.3 工業

町の地域性を活かし、木材、木製品製造業が7割弱を占めている。全国的に活発に行われている一村一品運動についても、オホーツク漆器をはじめとする特産品づくりが進められている。事務所数は8で、従業員数は79人、製造品出荷額は94,731万円である。

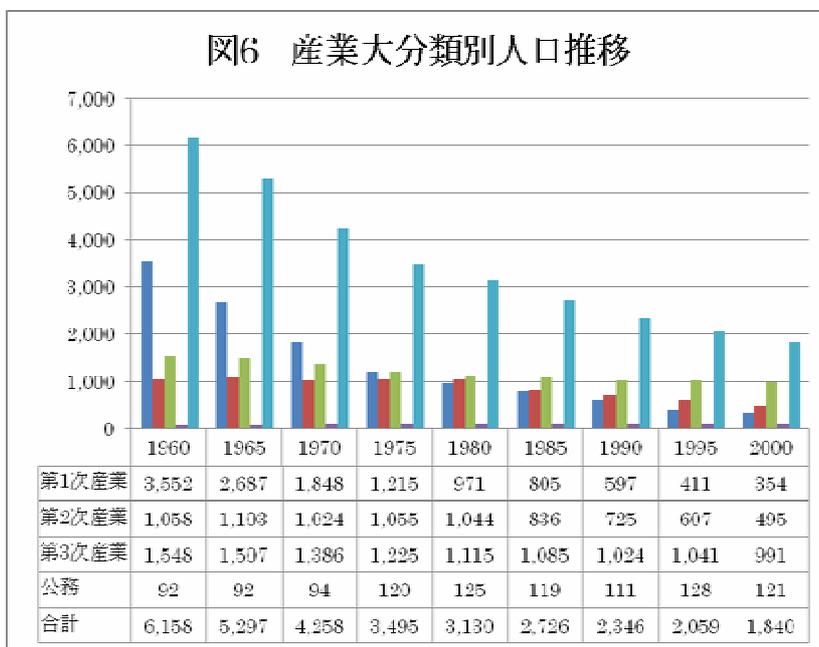
図4 卸売・小売業の推移



3.4 商業

卸売・小売業に関しては、平成16年6月の時点では商店数は67、従業者数は209人、年間商品販売額は406,023万円である。年間商品販売額は平成6~11年までは特に目立った推移はないが、平成14年からは一気に減少している。卸売・小売店数は緩やかではあるものの減少している。

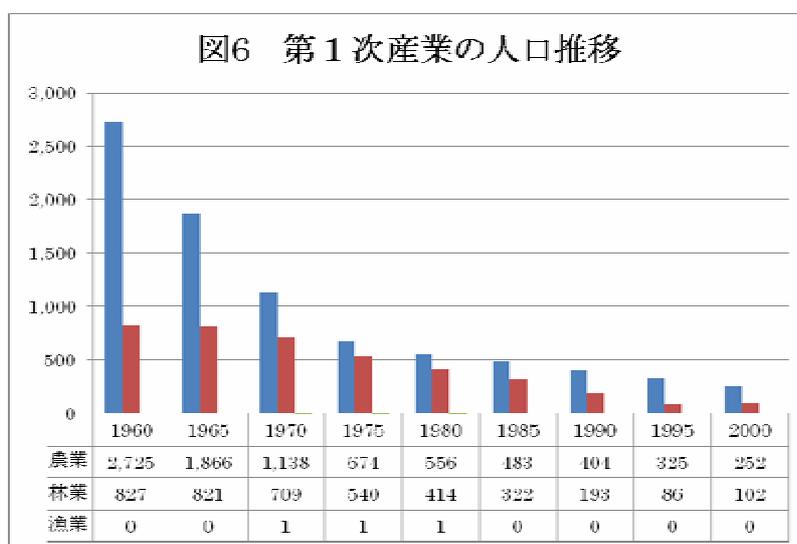
図6 産業大分類別人口推移

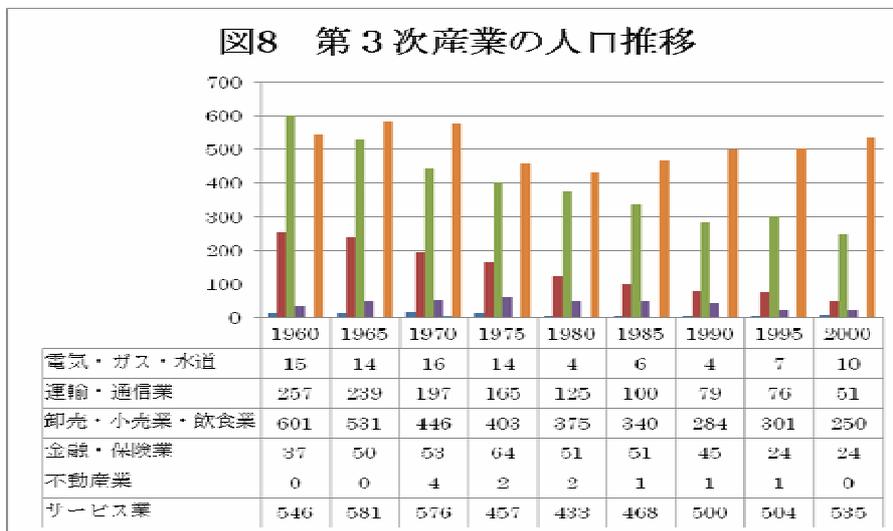
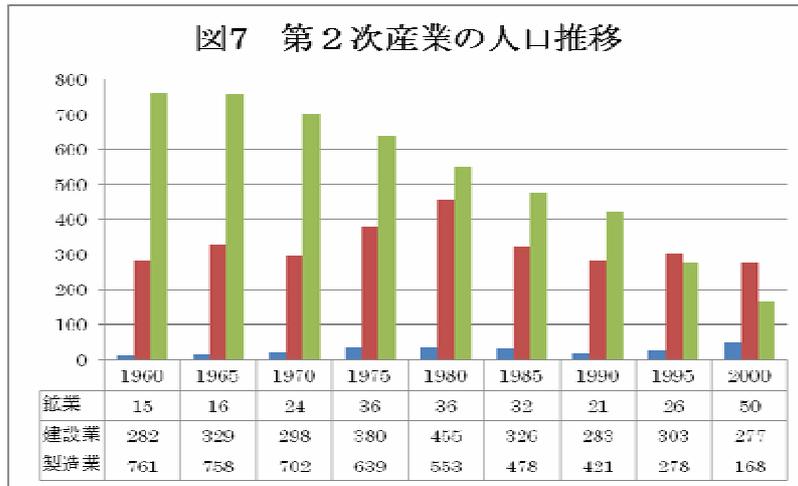


3.5 産業別人口

滝上町は1960年代は第1次産業の数が多かったが、それ以降は年々減少し続けており、減少の仕方が一番激しい。第1次産業の中でも農業が著しく減少している。滝上町の人口そのものが減少しているため、どの産業の人口も減少しているが、第2次産業と第3次産業は第1次産業と比べると減少が緩やかである。第2次産業においては鉱業の人口が若干上昇傾向にある。

図6 第1次産業の人口推移

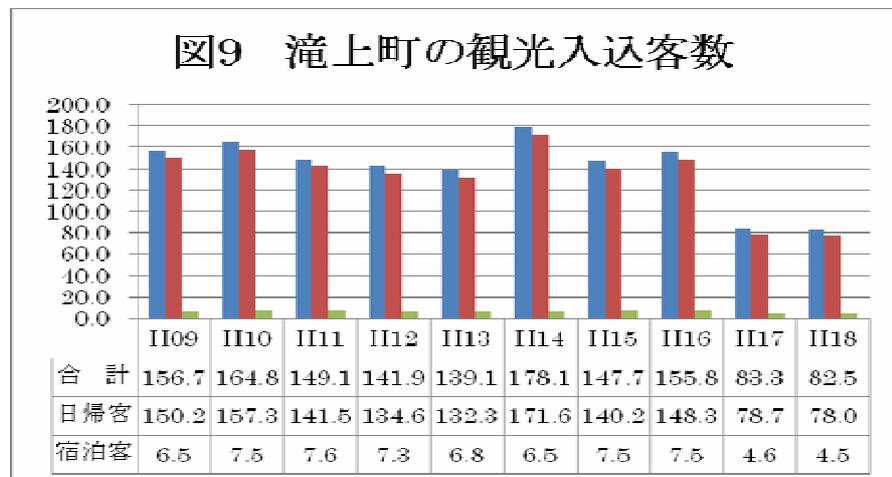




4.観光

4.1 観光入込客数

観光客は全体としてはあまり減少は見られないが平成 17,8 年が減少している。



4.2 観光スポット

4.2.1 芝ざくら公園

遠くの山々には、まだうっすらと雪が残る5月中旬から6月上旬にかけて山全体がピンク色に染まる、芝ざくらが一斉に咲き揃う。約10万m²の広大な公園に、紅赤、ピンク、白など色とりどりに咲く芝ざくらの迫力はまるでピンクの絨毯のようである。また、毎年5月中旬から6月上旬にかけて滝上公園で芝ざくら祭が行われている。

図 10 芝ざくら公園



出典 滝上町商工会 HP

4.2.2 香りの里ハーブガーデン

渓谷公園には、4万m²の香りの里ハーブガーデンがあり、5百種以上のハーブが7月から9月にかけて咲きそろっている。芝ざくらに続く観光基盤づくりとして着眼したのが香りの植物（ミント生産日本一）による観光開発で昭和59年から松造林地の開墾造成から始まった。体験実習館キューパレスでは、ポプリやリース、サシェなどのオリジナルなハーブグッズを作ることができる。

図 11 香りの里ハーブガーデン



出典 滝上町商工会 HP

4.2.3 虹の橋

虹の橋は、ちょうど町の中央にあつて渚滑川にかかっているロンドンブリッジのような英国風の橋である。旧渚滑線鉄道橋を、下55m、上が65mの2層構造で改築、その床下から流れ落ちる水は太陽の光の向きによっては本物の虹を見ることができる。季節を通して、山も川も街並みもとても美しく見える場所である。

図 12 虹の橋



出典 滝上町商工会 HP

4.2.4 浮島湿原

標高850mの浮島湿原は、浮島トンネルのすぐ近くから登れるようになっており、700ha周囲を高山植物に囲まれた湿原の中に大小無数の沼があり、その中を漂う湿原は秘境その

図 13 錦仙峡

ものである。

4.2.5 錦仙峡

市街地の中央を東西に流れる渚滑川の渓谷は、「錦仙峡」と呼ばれ「北海道観光百景」に選ばれたこともある景勝地で洛陽の滝、白亜の滝など大小さまざまな滝がある。また、この渓谷の両岸には延長 2 キロメートル余りの遊歩道があり、春は清流に映える新緑、夏は木陰の涼、秋には紅葉と四季を通じて楽しむことができる。バードウォッチングの最適の場所としても知られ、珍しい小鳥に出会うこともしばしばである。

参考 HP

・ 童話村滝上町ホームページ

<http://town.takinoue.hokkaido.jp/index.html>

・ 滝上町商工会

<http://www.takisho.or.jp/htm/index.htm>

・ 北海道網走支庁のホームページ

<http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp/>



出典 滝上町商工会